

UU ユー・ユー・ナウ now

時代の課題に向き合う



森永乳業株式会社
栄養科学研究所 所長

武田 安弘
Yasuhiro TAKEDA

CONTENTS

- 2 OB. OG. INTERVIEW
- 4 特集「ラーニング・コモンズ」
- 6 地域貢献REPORT
- 8 Welcome to 授業
- 9 Welcome to 研究室&ゼミ
- 10 研究keyword / 私の学生時代
- 12 宇大生は今!
- 14 UU News
- 15 INFORMATION
- 16 オープンキャンパス / UU-PRAS
- 17 大学基金のご案内
- 19 ホームカミングデー

時代の課題に向き合う



森永乳業株式会社
栄養科学研究所 所長
Yasuhiro TAKEDA
武田 安弘

病气や加齢などで通常の食事が摂れない人のための「流動食」の研究開発のパイオニアである。世界で初めて、超高温で瞬間的に滅菌した液体を無菌化したプラスチックバッグ容器に無菌充填する技術（MOAS：Morinaga Original Aseptic System）を開発し、食品本来の美味しさ、色、フレッシュ感を備えた流動食を実現させた。「病と闘う人に食事の喜びを感じてほしい」「介護者を少しでも楽にしたい」。消費者の声に耳を傾け、超高齢社会へと突き進む時代の課題に向き合った研究者人生である。【写真：取材協力の学生と。右から、農学部3年・志賀加奈 / 武田さん / 農学研究科1年・榎岡 潤 / 農学部4年・浅見晶子】



研究開発の概要を大学の後輩である学生に説明。森永乳業は流動食の国内シェア第1位

恩師の言葉に勇気づけられる

大学時代は硬式野球に夢中だった4番バッターとして活躍し関東甲信越大会を勝ち抜き、もう一步のところで全国大会出場を逃した。その健闘を伝える当時の新聞を学生たちに見せる姿はとてつもなく素晴らしい。

研究生活の原点も、宇大にある。いまも交流があり、「ちようえもん先生」と親しみを込めて呼ぶ宇大の恩師で、ミルク研究の第一人者、後に宇大学長を務めることになる菅野長右工門氏との出会いである。

菅野研究室の2期生。牛のミルクや母乳の分泌のメカニズムを研究した。よく先生と一緒に畜場にウシの乳房をもらいに行ったという。「学生時代の研究が、まさに、いまの仕事のベースになっている」先生との初めての出会いを、鮮明に記憶している。入学早々の新入生

「ゼロ」を「1」にする仕事

「森永乳業では誰もやったことのない分野ですから、その第一人者になれるのだと思います。それはやりがいがありましたよ」

入社後工場勤務を経て栄養科学研究所に配属。当初は赤ちゃん用のドライミルクなどの開発を担当していたが、医薬品会社から液体の流動食の開発依頼があったことがきっかけで流動食の開発を一人で手がけることになる。森永乳業では、1979年に日本で初めて紙パック入り流動食を開発してから、1品種を追加しただけで10年近く開発が行われていなかった。

「ドライミルクの開発は原材料とかがいろいろ制限があつて、枠にはまった中での開発になつていた。それに比べ流動食は、新しい素材があればそれを使って自由に開発することができた。ゼロ（無）を1（有）にするような仕事。これはおもしろいと思った」

研究開発で一番大切にしていたのが「消費者は何を望んでいるか」だ。消費者は直接流動食を摂取する方であり、その看護、介護者である。両者の要望に応えるため改良を重ねた。

医療現場で、口から食事が摂れず鼻からチューブで摂取する患者のためにに行われる専用のボトルへの移し替え作業や使用したボトルの洗浄の手間、院内感染への心配などに応え、移し替えせずにそのまま使用できる業界初のプラスチックバッグ入りの



宇大の野球部時代、チームの仲間たちと（向かって右が武田さん）。4番バッターでポジションはキャッチャーかファーストだった。現在は、会社のソフトボール部の監督兼4番バッターとして活躍する

歓迎コンパの時だった。「先生が、ぼろつと言ってます。『君たちには無限の可能性がある』と。私は当時、法律や政治にも興味があつて大学で何を学んだらいいのか迷いがあつただけに、先生の言葉はこころに響きました。そんな思いがあるから、いまでも先生とつながっている」

未来をつくる子どもを守る

武田さんは2年前に所長に就任した。研究の第一線を離れたいま、所

画期的な製品を開発。さらに、チューブを装着したままで水分補給や薬剤を投与しやすいように「注入口」「抽出口」を備えた2口バッグタイプを開発した。こうした製品によって看護、介護者の負担が格段に軽減された。

「昔の第一世代の流動食は、鼻からチューブで摂取するものだからといって味や色は重視されていなかった。でも、ゲップをすると味が分かるんです。なかには10年近くも流動食で過ごす方もいます。その方にとって大切な食事です。『細菌汚染を防ぐためには味や見た目はどうでもいい』じゃ駄目なのです。そうした思いで開発したのが、超高温短時間滅菌処理をし、無菌化したプラスチックバッグ容器に無菌環境下で無菌充填する「MOAS」と呼ばれる世界初の手法である。

「若い人にいつも言っているのは、引き出しをいっぱいにつけて、いろいろなものを入れておきなさいということ。何かの時に引き出しから取り出せば、新しいものをつくり出せる。引き出しは頑張った代償として生まれる。頑張らなかつたら引き出しは絶対に設けられない。どちらかというと失敗した経験が詰まった引き出しが大切なのです」



学生たちの取材に熱心に応える武田さん

長としてのミッションを語る。

「健康でいられるために、赤ちゃんのミルクから高齢者の食事まで幅広い商品開発を充実させる」

いま気にかけているのが日本に小さい赤ちゃんが多いことだ。低出生体重児は大人になった時、生活習慣病になるリスクが高いと言われている。母親が正しい栄養の知識を持ち合わせないまま体型を気にして食事を制限することが、赤ちゃんにも影響してきているという。

「超高齢社会の問題が注目されていますが、実はこちらの方がもう大きな問題。これからはこういう所に目を向けていかなければいけない。お母さんになる人は正しい栄養状態で赤ちゃんを守っていただきたい。未来をつくるのは子どもたちですから」

栄養科学研究所の司令塔として、60人余の研究員とともに、新たな時代の課題に立ち向かう。

■ 武田 安弘 【たけだ やすひろ】

1981年4月、宇都宮大学農学部畜産学科入学。85年3月、同卒業。同年4月、宇都宮大学大学院農学研究科入学。87年3月、同修了。同年4月、森永乳業株式会社入社。同年5月、阪神工場製造部製造課。88年1月、栄養科学研究所栄養研究室。99年4月、同栄養食品開発室主任研究員。2006年12月、同クリニック食品開発部部長。12年6月、同所長。

趣味は、野球・ソフトボール、フライフィッシング、オオクワガタブリード、畑で野菜作り。

蜂屋先生がアクティブ・ラーニング科目で、生きるということ、死ぬということ、そして人を愛するということをテーマに話されていることを知り、とても興味を持ちました。特に興味を持ったのは「失恋のすすめ」です。自分の生き方とか、自分の生活を見直す場として授業を受けられるというのは、すごくいいことだなと思いました。

【取材協力/本誌編集委員：手塚祐奈・教育学部3年】



あると思います。

アクティブ・ラーニングの特徴でもありますが、宇大の

ラーニング・コモンズのような環境や設備があることで、より効果的な学習が実現できると考えています。授業と施設をうまく組み合わせられているところが、宇大の

ラーニング・コモンズは、アクティブ・ラーニングを支える空間でもあります。アクティブ・ラーニングは、座学から学ぶ「知」を単なる知で終わらせず、実際の「行動」に結びつけていくための能力「行動的知性」を養うことを目指した新しい教育・学習スタイルです。宇大では、「学生自らの発表や学生同士の対話・意見交換」「教員と学生間の双方向のやり取り」「実社会の課題と大学で学ぶ知識の関連を意識できる工夫」などを盛り込んだアクティブ・ラーニング科目を開設しています。



ラーニング・コモンズとアクティブ・ラーニングの組み合わせ

蜂屋大八 特任准教授

アクティブ・ラーニング科目は、大学で勉強した知識を社会に出たときに使うための訓練をする授業です。知識の獲得よりも、その使い方に重きを置いたもので、授業の中には、グループ学習や調査、ディスカッションなどが入ってきます。能動的な学習スタイルを取り入れた授業です。

「生きるということ」という科目では、学生自身あまり考えたことがなかった、この世に生まれるということ、人を好きになること、死ということについて議論し、いまを生きるこの大切さを考えてもらうことがテーマです。人の話を聞き、それに対する自分の意見をきちんと述べることで主体性や傾聴力などのジェネリックスキルの獲得を目指します。

24時間オープンして

いますので、授業が終わってからも学生たちが自由に学びの場をつくることできる。授業の外でも学びは常に成立するものです。大学はそういう場を提供していくことが大切だと思います。



授業の外でも学びは常に成立する

留学生・国際交流センター

湯本浩之 准教授
現代社会が抱えているさまざまな問題の解決策を、自分たちで情報を集めたり、お互い議論したりしながら見出し、アクティブ・ラーニング、参加型学習と言われるものです。



授業はグループワークが主体



従来の教室とは異なるスペースを自由に活用する



定期的に関催される「カフェ・コモンズ」。この日は、宇都宮市の担当者を招き「ゴミ問題」を考えた

「大学の中の公民館」

ラーニング・コモンズ 担当



若園雄志郎 特任准教授
ラーニング・コモンズは、「大学の中の公民館」といえます。公民館は社会人、あるいは学校を終えた小中学生たちが集って自主的に学習する場です。それが大学の中にあるというふうイメージしていただけたらと思います。

学生たちが集って、自分たちで課題を発見して自分たちで解決する。極端なことを言えば、答えが見つからなくてもいい、見つけるためのプロセスをどのように辿っていったかということを大切にしたいと思っています。

例として教育実習中の学生が夜9、10時にコモンズに集まって、その日の実習を振り返り、模擬授業について相談し合っている光景が見られます。誰に言われるわけでもなく、自主的に集まり、パソコンやプロジェクトIを使って、将来、教員の知識やスキルを磨いて自主学習のツールが備わったコモンズでなければできないことです。

特集

宇都宮大学 基盤教育センター

ラーニング・コモンズ Learning Commons

TEL028-649-5073(内線:5073)

E-mail:commons@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

URL http://lgec.utsunomiya-u.ac.jp/lc/index.html

ラーニング・コモンズって何？
自主的な学修のために24時間いつでも利用できる学びの空間です。学生同士の主体的な学びを支える施設で、プロジェクト、パソコン、模造紙、マジック、ふせん、はさみなどグループワークに必要な機材・道具が備えられています。机や椅子は自由に移動することができます。ホワイトボードに自由に自分の意見や考えを書き込むことができます。専門のスタッフが話し合いの手法についてアドバイスし、授業外の学生の学びをサポートします。



私たち学生はこんなふうにご利用しています。

大迫千恵子

【農学部森林科学科4年】

基盤教育だけではなく、専門科目の授業もコモンズを使ってやるのがあります。ワークシヨップ形式の授業のときに道具が揃っているのも便利です。サークルで食糧問題についてワークシヨップをやろうと思ったときに、ワークシヨップの手法がわからず、コモンズの先生から助言をいただくことができました。コモンズは、他学部の学生や教職員の方が利用しています。



大迫千恵子さん(写真左)と加藤ジオラन्दルさん。コモンズの利用の仕方を話し合う

行動的知性を獲得する

アクティブ・ラーニングは、授業以外に学生同士で議論を深めたり、課題を一緒に仕上げたり、自主的な活動を併せて行うことではじめて成り立ちます。このような活動をサポートするためにラーニング・コモンズは学生たちに開放されています。アクティブ・ラーニング科目をはじめとした授業とコモンズでの授業外学修を通して、一人ひとり自ら課題を見出し、自ら考え抜き、一歩前に踏み出す力を身につけてもらうことがアクティブ・ラーニングとラーニング・コモンズが目指すものです。



【国際学部国際社会学科3年】
日中は授業やサークル活動で忙しいので、課題は夜、コモンズで

【国際学部国際社会学科3年】

荒井絵理菜

環境は、勉強したい人にとってありがたい環境です。



コモンズは学生の交流の場(写真はコモンズ1階)

【教育学研究科学校教育専攻1年】

加藤ジオラन्दル

コモンズのような開放的な空間で行われる学習は、いろいろな人の目にふれるわけです。見える刺激にもなりますし、僕はここに来るのがすごく楽しい。あのグループは何を勉強しているのかな、「ここではスペイン語を勉強している」とか、お互い無意識のうちに切磋琢磨できます。分野や年代を越えているいろいろな人と同じテーマで話し合えるので、その分、意見の幅、膨らみがあります。高校時代にはなかった開かれた学習環境は、勉強したい人にとってありがたい環境です。

木村千尋 スタッフ

【基盤教育事務室事務補佐員】

利用予約の管理や、先生の紹介など学生のサポートを担当しています。4月のリニューアルオープン以来、多くの学生に利用していただいています。昼はランチ、夜は夕食をとりながら話し合いをするという利用の仕方もあります。学生に近い存在として、少しでも学生の自主学習のお手伝いができればと思っています。



受付で学生の相談にのる木村千尋さん

教育委員会や地域の学校と連携し、教員養成から教職生活までをサポートする「教職センター」(センター長・茅野甚治郎 理事・副学長)が宇都宮大学の全学組織として今年度設立されました。同センターが目指すものを、教育学部長・藤井佐知子教授、副センター長・松本敏 教育学部教授、副センター長・瓦井千尋 教授兼教職企画調整室長が話し合いました。

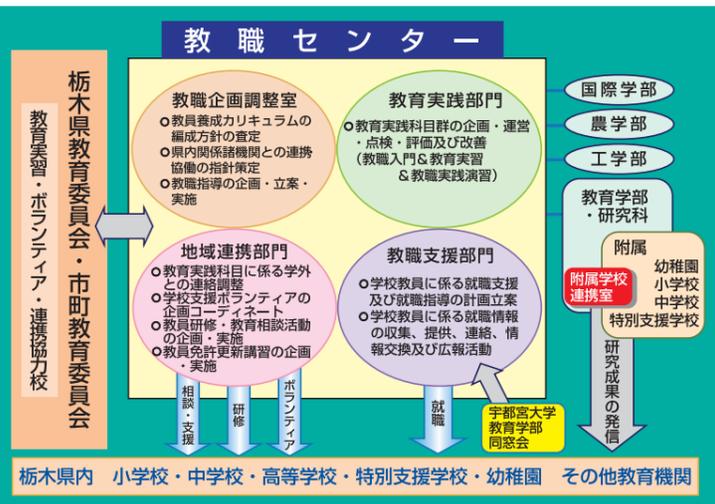
*取材協力…本誌編集委員/教育学部3年・手塚祐奈、工学部2年・松山大介

REPORT
宇都宮大学
地域貢献
宇都宮大学
教職センター

教育委員会や地域の学校と連携し、
教員養成から教職生活までをサポート



教職センター：峰町8号館(教育学部)A棟1階/TEL028-649-5272



全学組織としてグレードアップ

松本 はじめに教職センター設立の経緯について学部長から話していただけますか。

藤井 教職課程をとる学生は教育学部以外にもいますので、すべての学部の教職を目指す学生の支援体制をつくりたいという願いが以前からありました。また、宇都宮大学が栃木県の教育界に対してどのような貢献ができるかという視点を持って、両者の連携をいままでも以上に組織として強めていきたいという願いがあります。その2つの願いから教職センターを立ち上げました。

松本 瓦井先生は、長年、栃木県の教育行政に携わってききましたが、宇



藤井佐知子 教育学部長

学外組織との連携を担う「企画調整室」の新設

松本 教職センターは、教育学部でやってきたことを全学的な組織の中でよりグレードアップしていく役目をこれから負うことになると思います。これまで教育学部でやってきたことは大きくわけて3つあります。教員免許をとるための科目の企画運営や教育実習などを担当する教育実践部門。スクールサポートセンターなどの地域連携部門。そして、教職支援部門です。その3つを全学組織の中で引き継いでいくということが基本にあります。

そこに、3つの部門の仕事の調整と、教育委員会その他の学外の組織との連携をもっと密にするために企画調整室という部門をつくりました。この企画調整室の室長としてお呼びしたのが栃木県教育委員会教育次長を務めていた瓦井先生です。

瓦井 「宇都宮大学として全学的に支援します」とアピールする立場として教職センターができました。教職センターを通して宇都宮大学の力を発揮できるようなものをつくりだしていけたらと思っています。

松本 農学部の学生が小学校に行くと田植えの指導をしたり、工学部の先生が1丁のノウハウを学校現場で指導したり、国際学部では外国人児童生徒への支援などを行ってきましたが、それぞれバラバラにやっていたという印象です。それをつないでいけばもっと強力なものになるのではないかと思います。



手塚祐奈 教育学部3年

大は4つの学部がすべて教職課程を持っていて、それぞれ教員を養成してきたという状況はどのように映っていましたか。

瓦井 それぞれの学部が持っているノウハウの連携を図りながら進めていけば、さらに質の高い教員養成ができるのではないかと感じました。それは工業、農業系の教員養成です。工学、農学部も教員養成の伝統がある教育学部の力を借りることで、よりよい教員を養成できるのでは、との思いはありました。

松本 各学部の教職課程を一手にみる全学組織のセンターをつくったというところに意味があると思います。

学部長が話された2つ目の地域連携については、各学部が地域と連携



松本敏 副センター長

教育委員会との共同研究

藤井 もう一つ、このセンターができたことでこれからやらなくてはならないとされていることは、教育委員会と我々がタイアップして、いい教育とは何か、例えば子どもたちの学力向上とか、こころの問題とか、そういう問題を研究して学問と実践をつなげたかたちで学校現場に貢献することです。それはこれからの課題ですね。

松本 平成24年に中央教育審議会から、ある答申が出ました。いままでは、教員を養成することが大学の仕事で、先生たちを現場で育てるのは教育委員会の仕事と分担してやってきたのですが、それでは間に合わない時代が来たと言っていますね。私たちもそう思っています。やはり教員を育てるときも教育委員会の意見が反映され、先生になってからも大学のノウハウが活かされるようなかたちで、大学、教育委員会両方が一緒になってサポートする必要性がますます高まっています。そのためにも、このセンターは大事な役目を果たさざるをと思っています。

学部長が言った研究という部分では、例えば発達障害の子どもへの対応など新たな課題に対処できる先生を育成するための研究が求められるのですが、そのためには両方の力を結集しないと難しいわけです。その窓口として教育委員会と大学をつないでいければという思いがあります。

瓦井 ただ大学の中だけで考えていたのでは視野が狭くなる可能性もある

している、あるいは、それぞれの先生たちが連携しているだけではなく、大学全体の組織として地域と連携するというかたちをつくるのが大事だったのですが、これまで培ってきた栃木県、特に栃木県の教育界と宇大全体との関係、その実績が大きいと思います。

藤井 そうですね。宇大の強みは地域貢献、具体的に言いますと、教育学部の先生方が学校の現場に行きまして、校内研修であるとか、いろいろな指導を行ってきたことがあります。ただそれは、ある先生がある学校にという点の関係で、それをもう少しと広げて面の関係にしていかなければいけないということがあります。



瓦井千尋 副センター長・教職企画調整室長



松山大介 工学部2年



りますので、県や市町の教育委員会の声を聞いたり、あるいは他学部のノウハウを受け入れたり、そういったものを総合的に加味しながら、これからの時代の先生を養成するにはこういうメニューが必要なのだというものを宇大が見出して、それを地元はもとより全国にアピールできれば、そのためにつくられたセンターであると私は受けとめています。

松本 宇大規模の大学で教職センターをもっているところはあまりありませんので、画期的なことだと思います。このセンターを十分活かしていきたいと思っています。

研究室概要

「運動生理学研究室」では運動のパフォーマンス向上やスポーツ障害の予防を旨とし、骨格筋の循環や筋肉の硬さについての基礎的研究を行っています。また、運動が生活習慣病予防に果たす役割について病院や企業と共同研究を行っています。

最近では、児童生徒の体力の向上や肥満の予防に関する調査・研究を教育委員会や自治体と連携を図り積極的に行っています。

Welcome to 研究室&ゼミ



学生から



運動後の疲労回復について研究しています。私は陸上競技をしていますが、予選レースを終えて決勝レースまでの間に、クーリングダウンやマッサージ、アイシングなど、どのような疲労回復の処方をすれば一番効果が得られるかを、運動後の乳酸値や心拍数などを分析することによって調べます。自分自身のレベルアップと、将来教師になった時に児童生徒の指導にこの研究成果を活かせればと考えています。

学校教育教員養成課程保健体育専攻4年 郡司 康平

皮下脂肪、内臓脂肪に次いで「第3の脂肪」と呼ばれる異所性脂肪がインスリン抵抗性に及ぼす影響について研究しています。現在、生活習慣病の発症の原因の一つに内臓脂肪の過剰蓄積があげられますが、日本人の場合、このことだけではなかなか説明がつかいません。異所性脂肪を研究することで日本人特有の生活習慣病の発症の解明につながると考えています。また、有酸素運動で肥満がどのくらい改善するかも調べていく予定です。

同 森島 祥子



小学校の体力テストのデータを使って瞬発力や持久力が成長に伴ってどのように変化していくかを研究しています。人は一人ひとり発育の度合いが違いますので、個人にあった体育の評価とは何かを考える手がかりとして、また、記録が伸びない子どもに対しどんな手助けが必要か検討するために分析結果を還元できればと思います。小学校教諭を目指しているので、研究だけに終わらず、現場に出たときに活かしていきたいと思

同 佐藤 慎太郎

もともと小宮先生の授業を受けて運動生理というものに興味を持つようになりましたし、卒論発表会で先輩たちの話を聞いて、この研究室に入ることを決めました。3年生なので研究テーマは決まっていますが、興味があるのはやはり疲労回復など運動生理についてです。私自身陸上競技をしているので、競技につなげていければと思っています。いまはケガで競技は中断していますが、ケガのことも研究できるのかなと思っています。

同3年 大西 なつ美



教員から

教育学部には、学校教育教員養成と総合人間形成の2課程があります。学校教育教員養成課程の学生は児童生徒の体力向上、肥満や痩せの予防など学校現場に関わるテーマを、総合人間形成課程の学生は健康・スポーツ関連の職業に就いたときに活かせるようなヘルスサイエンス、スポーツサイエンスを研究テーマに選ぶ傾向があります。

研究室で学んだことが、社会に出たときに直ぐに役に立つということは少ないかもしれませんが、与えられた課題、あるいは自分で見出した課題をいかに解決していくかという科学的方法論を学び、経験することは大切です。

実験によって得られたデータを解析し、その科学的な裏付けを参考文献などを用いて検証する。また、研究会などで発表を行い、第三者から指導や評価を受ける。このような経験を通じて教師となって教壇に立っても、企業人となって企画書を作制する場合にも、自ら課題を解決していくことができる方法論と能力を身につけてほしいと思います。

小宮 秀明 教授



授業概要

本授業では、主に機械システム工学科の学生を中心に、機械やプラントで用いられる材料にどれくらいの力が働いているかを計算する知識と、それを使いこなす具体的な方法について習得してもらうことを目的としています。高校物理で学んだ「力のつり合い」や「フックの法則」なども登場するので、大学の専門科目の中では取り組みやすいのではないのでしょうか。

学生から



材料力学は「機械」を学ぶ上でのエッセンスの一つとしてとても役に立っています。高校の物理の授業は、ただ数式を覚えるだけとか、問題の解き方を覚えるだけというような授業が多かったように思いますが、大学では、実際にモノをつくる時などに数式、原理がどのように使われるのか、具体例を示して教えてもらえるところに興味を覚えます。

機械システム工学科2年 丸山 翔太

モノに力を加えた時、どれくらい歪むか。熱を加えると、どれくらい曲がってしまうのか。そういうことを学ぶ機会がこれまでなかったので、おもしろさを感じます。物理は紙の上の話ではなく、実際に何かを設計するときに必要な知識であるということ、この授業で実感しています。モノをつくる時に力学を頭に入れておかないといけないと思いました。

同 永澤 春佳



この授業は、何かモノをつくるための基礎的な知識をしっかり固めるための学習と理解しています。材料力学についてしっかり勉強してからつくる側に回らないと、モノづくりの現場で大きな事故を引き起こしかねないということを感じました。また、昔と現在では数値の正確性、精度がぜんぜん違うということを知り、技術の進歩というものを感じています。

同 塩田 諒介



Welcome to 授業



教員から

材料力学は、機械工学の中で機械力学、熱力学、流体力学と並んで4大力学の一つとされています。飛行機や車など乗り物だけではなくプラントや工場などを設計、製造する上で、材料力学の知識は欠かせません。材料力学に基づいて設計されなければ、人命に関わるような重大事故を引き起こしかねません。

身近なところで、一番わかりやすいのが鉄道のレールです。レールは夏場に膨張しますので、レールとレールの間に隙間が確保されています。隙間がないと材料力学でいう応力が発生してレールがグニャッと曲がってしまいます。材料力学は私たちの生活に関わる重要な学問、知識なのです。

学生にとって材料力学は、高校で学んだ物理に近いところ、共通性がありますので、いわゆる「高大連携」のギャップが生じないよう工夫しながら授業を進めることをこころがけています。

学生たちに望むことは、自分で考える癖を身につけてほしいということです。そのため講義以外に、自ら取り組む課題など、繰り返し自分で学ぶ機会をつくるようにしています。

まず自分で考える。わからないところがあれば学生同士でディスカッションする。あるいは、私たち教員のところに聞きに行く。問題を解くために必要な情報を自分で見つけ出し、集めた情報を使って、合理的に答えを引き出していく。大学の勉強は論理的にもの考えることです。

山本 篤史郎 准教授



工学部 機械システム工学科 材料力学 I

研究 Keyword

石油が支える非民主的統治

— 中東政治経済研究 —

国際学部国際社会学科 准教授 松尾 昌樹

奇妙な湾岸諸国

私は現在、中東諸国、とりわけアラビア半島のいわゆる湾岸諸国（サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦オマーン）の政治経済体制を研究しています。これらの国は産油国として有名で、世界中からもたらされる莫大な石油輸出収入を背景に、急激な経済発展を続けています。

元来が小国で人口の少ない湾岸諸国は、急速な経済成長によって労働力が圧倒的に不足しました。この不足を補っているのが、インドやパキスタン、フィリピンやインドネシアといった南アジア、東南アジア諸国からの外国人労働者です。現在では、湾岸諸国の多くでは自国民よりも外国人の方が多く居住するという逆転現象が見られる、世界でも珍しい地域になりました。

新しい分析枠組

湾岸諸国が興味深いのは、めざましい経済発展を達成しながらも、民主化が遅々として進まない点です。結果として、国民と外国人の賃金は7倍程度に達することもありますが、こうした格差によって、国民は自分たちが特権的地位にあると認識するようになり、また一般国民と王族の間の格差が隠蔽されます。このため国民の不満が抑えられ、王族への不満もやわらぐと考えられます。

エスノクラシー体制

確かに、税金を払わずにさまざまなサービスを提供してくれる恩恵的な政府があれば、国民はそれを支持するでしょう。政府に反発してあえて参政権を要求することもないかもしれません。

しかし、湾岸諸国で石油経済が成り立ってから既に半世紀近くが経過しており、湾岸諸国の若者世代にとって、国民が政府から無償でサービスを得るのは恩恵ではなくもはや当然の権利となっているかもしれません。こうなってしまうと、政治力や経済的な富を独占する王族に対して国民から強い反発が生まれ、これが民主化運動につながるかもしれません。ですが、こうした動きはまだ顕在化していません。この背後にあるのが、

湾岸諸国と日本

このように奇妙な湾岸諸国と日本の間には、実は密接なつながりがあります。我々は中東から石油を輸入せずに生活できませんが、我々が石油の代金を支払うことが「レンティア国家」を成立させ、中東の非民主的体制を支えているのです。中東の民主化を阻んでいるのは、我々なのです。また、日本は減少する生産年齢人口を補うために、今後多くの移民を受け入れて行くことになるでしょう。その時、エスノクラシーを作り上げるのか、別の形態を作り上げるのか、こうしたことを考えるときに、湾岸諸国は日本の選択肢を示しているのです。



サウジアラビアにて。外務省勤務時代（写真：左手前/1998年）



国際学部国際社会学科 准教授 松尾 昌樹

PROFILE

東北大学国際文化研究科博士課程修了。外務省専門調査員、アジア経済研究所外部研究員等を経て、2004年10月より宇都宮大学国際学部。専門分野は中東地域研究。博士（国際文化）。

す。現在の湾岸諸国はいずれも君主国で、これらの君主は象徴的な存在ではなく、実際に統治の権力を保有・実行し、議会の権限は非常に限定的です。

かつては、民主化が進展しない理由はその国の貧困に求められることが多くありましたが、湾岸諸国のように経済発展しても民主化しない事例が目立つようになってくると、貧困以外に別の理由が考えられるようになってきました。

そうした新しいアプローチの中で、石油収入に代表される非税収入（これを学術的には「レント」と呼びます）に立脚した「レンティア国家仮説」や、大量の外国人と国民の間の格差を統治に活用する「エスノクラシー体制」といわれるものが、私の研究対象です。

レンティア国家仮説

民主主義の根本には、国民の政治参加があります。これを象徴的に示すのが、アメリカ独立革命時に唱えられた「代表なくして課税なし」でしょう。国民が税金を払っているの



湾岸諸国とその周辺諸国の地図

だから、その税金で運営される政府に国民が口を出すのは当然の権利だ、という訳です。では、国民が全く税金を支払わずに、にも関わらず政府がさまざまなサービスを提供してくれるとしたら、どうでしょうか。湾岸諸国では、国民は所得税や消費税を全く支払いませんが、道路も学校も病院も、全て政府が無償で提供してくれます。湾岸諸国は有り余る石油輸出収入を税収の代わりに利用できるのです。税を徴収せずとも、無償で国民にサービスを提供できるわけです。

My Campus Life

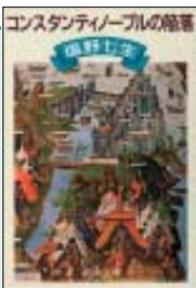
りの悩みや考えは共通しているということも実感しました。

大学院のときの指導教員の専門は歴史ではなく現代政治でした。その先生が言われた「歴史というものは研究する意味があるのか」という問いかけに対して、「歴史は学問として意味があるものだ」ということを証明し、先生に納得してもらって博士号をとることが学生時代の一番の目標でした。

いま、歴史を学ぶ意味を問われれば、「現代の我々は何者かというものを規定する根拠として必ず歴史を引き合いに出す行為を我々はします。そういう文脈で歴史研究をとらえなおすことが、いま、我々が生きている社会で歴史を研究する意味なのだろう」と答えます。

実は、大学に入学したときから、将来、研究を続けられる大学の教員になりたいと思っていました。いま振り返ると、「大学という空間が持っている魅力にひかれて、こうしたところで生活していきたい」という思いがあったのでしょね。

（取材・構成 / アートセンターサカモト 栃木文化社 ビオス編集室）



「新潮文庫」表紙より

私の学生時代 歴史を研究することの意味

私の学生時代

高校生のとき、オスマントルコがビザンティン帝国の首都・コンスタンティノープルを陥落させた史実を描いた『コンスタンティノープルの陥落』（塩野七生著）を読んだことが、中東に興味を持つきっかけでした。

大学で歴史学を専攻し、オスマン帝国の歴史を研究しました。大学院に進み、博士後期課程のときに外務省の在外公館専門調査員制度でサウジアラビアに2年間滞在しました。それが私にとって初めての中東体験で、大使館の業務をしながら中東に深くかかわっていくことができました。もっぱら歴史を研究していたため、現代の中東には関心がなかったのですが、聞くと見るとは大違いで、いろんなショックを受けました。ただ、



大学院博士課程1年生。サウジアラビアリヤド付近の砂漠にて

宗教は違っても、若者な

ノーベル受賞者たちと HOPE Meeting

工学研究科
博士後期課程2年
Okano Chigusa
岡野 千草



チームプレゼンテーションの人たちと

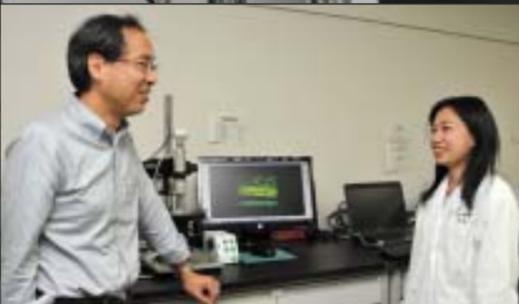


マーティン・シャルフィー博士
(2008年ノーベル化学賞受賞)と

ブライアン・シュミット博士(2011年ノーベル物理学賞受賞)と



岡野さんのポスター発表



指導教員の加藤紀弘教授と研究室で

用いて細胞外からシグナル分子をトランプすることで、細菌を殺すことのない、病原性因子発現の抑制がこれまで確認されています。

生物機能の抑制だけでなく、クオラムセンシングを通じて有益な遺伝子発現を行う細菌に対しては、クオラムセンシングを人為的に活性化する方法の確立を進めています。

なぜ博士課程に進んだの？

こどもの頃から科学に興味がありましたので、研究者になりたいと思っていましたが、博士課程に行くか企業の研究者になるか、迷いがありました。論文をたくさん検索していくうちに大学の研究室では、後世まで続く論文として残すことができるということがわかり、やりがいを感じて博士課程に進みました。参考にしているのは直近5年間くらいの論文が多いのですが、元をたどっていくと50年前とか、古い論文を基礎にして積み上げているということがよくわかって、自分もその流れのなかに入りたいと思いました。

なぜ宇大を希望？

いま所属している研究室で学びたかったということがあります。高分子化学や感染症予防材料などソフトウェアという大きな分野を扱っていて、幅広い分野の研究ができるからです。医療分野の研究をやってみたいという思いもありました。学部時代にソフトウェア研究の指導教員である加藤紀弘先生の授業を受けましたが、とても尊敬できる素晴らしい先生です。私が大切に

HOPE Meetingとは、世界トップクラスの研究者と、今後世界をリードするアジア・太平洋地域から選ばれた大学院生等が膝を突き合わせ、熱い対話を重ねる「知の合宿」である。3月に開催された第6回HOPE Meetingには19カ国から100名を選抜、うち75名は海外からの参加だった。厳しい選考に合格して参加した工学研究科博士後期課程の岡野千草さんの研究室を訪ねた。

HOPE Meetingとは？

研究発表が中心となる学会のシンポジウムとは大きく異なり、ノーベル賞を受賞された先生方との少人数でのディスカッションや1週間で作るチームプレゼンテーション、文化交流プログラムなどによって、将来にまで続く研究者としての教養の獲得、また研究者の輪を広げることが目的に行われます。

英語でディスカッション

チームプレゼンテーションでは、EOM Meeting 開催前からチームメンバーとメールで連絡を取り合い、プレゼンテーションの方向性や、準備事項について決定し、開催期間中も毎日遅くまで話し合いました。

研究以外の場面で、英語でディスカッションをする機会はこれまでなかったため、自分の伝えたいことがすぐに伝えられずにディスカッションが進んでしまうこともあり、瞬発力がこれからの課題になりました。

Meetingで印象的だったことは？

宇宙物理学を研究されている先生

英語でディスカッション

チームプレゼンテーションでは、EOM Meeting 開催前からチームメンバーとメールで連絡を取り合い、プレゼンテーションの方向性や、準備事項について決定し、開催期間中も毎日遅くまで話し合いました。

研究以外の場面で、英語でディスカッションをする機会はこれまでなかったため、自分の伝えたいことがすぐに伝えられずにディスカッションが進んでしまうこともあり、瞬発力がこれからの課題になりました。

もう一つ宇大を希望した理由に、他大学にはなかなかない恵まれた実験設備、環境があることが魅力でした。これは宇大の強みだと思います。実習の時間もとても長くとってくださいます。研究者の基礎をきっちり身につけられると思います。

将来の夢は？

海外で働きたいと思っています。日本の技術を伝えるためにも海外の人とコラボレーションして日本の技術をもっと世界に広めていくのが重要だと思いますので、海外の研究室に一回籍を置くことでいい経験になると考えています。将来的には帰ってきてほしいですね。その一つのきっかけとして海外の優秀な研究者の方とつながりを持つことで将来にもわたって研究の輪を広げられるのではないかと、HOPE Meetingへの参加を希望しました。

参加していかがでしたか？

チームメンバーをはじめとする同世代の研究者との1週間の密な交流を通じて、研究を通してだけではない人間関係を培えたと思います。

ノーベル賞を受賞された先生方とさまざまな専門性を持つ学生たちが構成されるグループディス

のディスカッションに参加させていただいたときに、全く分野外の私の質問にも本当に真摯に考えてくださったり、いろんな分野の方の話を柔軟に聞いてくださいました。それをフィードバックしてくださる、一つの考え方に固執しない先生方の考え方がとても印象的でした。

ところで博士課程の研究室ではどんなことを研究しているの？

私たちのグループでは、細菌の細胞間情報伝達機構であるクオラムセンシングの制御をテーマに研究を進めています。

クオラムセンシング機構を有する細菌は、シグナル分子を生産し細胞外に放出しており、菌体増殖に伴うシグナル分子濃度の上昇によって仲間の存在を感知し、生物発光、バイオフィルムの形成、病原性因子などさまざまな生物機能に与する遺伝子発現を誘導しています。

私たちがターゲットとするセラチア菌や緑膿菌は、ヒトへの日和見感染症の引き金となる病原性因子の発現をクオラムセンシングによって誘引することが知られています。

専門的な内容ですね。続いて説明してください。

一般に、細菌感染症は抗生物質の投与により防がれていますが、薬剤耐性菌出現のリスクを含んでいます。私たちのグループでは、抗生物質を使わずに感染症を予防する新しい方法として、クオラムセンシング機構の制御に着目しています。生体に安全な機能性高分子やホスト分子を



「HOPE」という言葉には、「活躍が期待される若手研究者」「将来のアジア科学技術コミュニティ形成に向けての希望」の2つの意味が込められています。東京のホテルにて。(日本学術振興会H.P.参照)



第2回夏の学校ー日本と遊ぶー(特別公開講座)

日時：8月3日(日) 13:00開場 13:30開演
 場所：峰ヶ丘講堂(峰キャンパス)
 参加費：無料
 内容：「伝統芸能から総合芸術へ」俳優 麻生花帆による舞台と講話



演目：
 一、講話「邦楽の調べ」
 麻生花帆、他
 二、いざない
 総合人間形成課程学生
 三、「平家物語ー祇王ー」
 主演 麻生花帆
 共演 和太鼓 金刺敬大
 箏 本間貴士

総合人間形成課程Facebookページ
<https://www.facebook.com/sougou.arts>
 問い合わせ先：shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp
 担当：中島宗皓

工学部・宇都宮東図書館 連携イベント

レゴロボットによる製作体験、乗車可能ロボットの体験、化学実験実演、プラとんぼ製作、アイデアカー製作、工作教室など小学生向けの体験実験を行います。
 日時：8月22日(金) 10:00~15:00
 場所：東生涯学習センターホール(東図書館併設)
 対象：小学生
 参加費無料、申し込み不要
 問い合わせ先：宇都宮市立東図書館 TEL:028-638-5614

フォーミュラSAE (Society of Automotive Engineers)

第12回 全日本 学生フォーミュラ大会
 学生が自分たちで構想・設計・製作する車両による競技会
 開催日：9月2日(火)~6日(土)
 会場：エコパ(小笠山総合運動公園・静岡県)
 機械システム工学科杉山研究室の学生・院生、学部生が参加します。

附属幼稚園公開研究会

研究主題「子どもの豊かな暮らしを創造する幼稚園の環境」
 日時：11月15日(土)
 ・公開保育及び保育研究
 ・講演会 講師 文部科学省初等中等教育局 視学官 津金美智子先生
 場所：教育学部附属幼稚園
 問い合わせ先：宇都宮大学教育学部附属幼稚園
 TEL:028-622-9051

お知らせ

役職員の報酬・給与等の水準公表について

国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について(ガイドライン)に基づき、平成25年度の役職員の報酬・給与等の水準を公表しています。
 詳しくは本学ホームページをご覧ください。
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/jyouhoukoukai/sosiki-jyouhou.php>

オープンキャンパス(特別支援学校)

日時：(第1回目)7月10日(木)9:30~11:30
 (第2回目)9月4日(木)9:30~11:30
 場所：教育学部附属特別支援学校
 内容：小学部、中学部、高等部の授業参観
 校舎内外施設設備の見学
 問い合わせ先：教育学部附属特別支援学校
 TEL:028-621-3871

*学校祭
 日時：11月1日(土)
 9:20~14:25
 場所：教育学部附属特別支援学校
 内容：小学部、中学部、高等部の発表、作品展示、作業製品販売、PTAによる模擬店・バザー等
 問い合わせ先：教育学部附属特別支援学校
 TEL:028-621-3871



附属図書館を高校生へ開放いたします

本学附属図書館を高校生の学習の場として開放いたしますのでご利用ください。
 開放館：本館(峰キャンパス内 閲覧席:568席)
 開放期間：平成26年8月8日(金)~9月30日(火)
 8月13日(水)~17日(日) 9月3日(水)は休館日です。
 開館時間：平日/9:00~17:00
 土・日・祝日/11:00~17:00
 ・入館方法：生徒手帳を提示してください。併せて受付簿に氏名・学年をご記入いただきます。
 ・利用マナー：館内での飲食はできません。館内では静粛にしてください。携帯電話は、電源を切って入館してください。閲覧した資料は、次の利用者のために正しい位置に戻してください。
 問い合わせ先：附属図書館利用者サービス係
 TEL:028-649-5134



UUnow各号は**峰が丘地域貢献ファンド**の支援を受けて発行しています。

賛同企業(五十音順)
 (株)足利銀行 / (株)井上総合印刷 / 宇都宮大学消費生活協同組合 / 鳥山信用金庫 / 光陽電気工事(株) / (株)TKC / (株)栃木銀行 / ミニストップ(株) / その他金融機関 / 宇都宮大学国際学部同窓会
 峰が丘地域貢献ファンドホームページ
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/fund/fund.php>



ロボットは、全長1.3メートル、フル充電で4~5時間程度稼働する。最高速度は時速6キロ

つくばチャレンジ

*本走行
 11月16日(日)
 *実験走行
 7月12日(土)
 8月2日(土)
 9月21日(日)
 10月12日(日)
 13日(祝)
 11月3日(祝)
 10日(月)
 14日(金)
 15日(土)



尾崎教授(左)と研究室のメンバー。ロボットのデザインから設計・製作まですべて学生が担当

児玉 豊 准教授が 笹川科学研究奨励賞を受賞

バイオサイエンス教育研究センター専任教員の児玉 豊 准教授が平成25年度 笹川科学研究奨励賞(主催:公益財団法人日本科学協会)を受賞しました。

同賞は、前年度に35歳以下の若手研究者をサポートする笹川科学研究助成に採択された研究者の中から、優秀な研究成果を挙げた研究者に贈られる賞であり、平成25年度は、318名の採択研究者の中から児玉准教授を含む14名が受賞者として選ばれました。



ANAインターナショナルホテル東京において、受賞講演をする児玉准教授

今回の賞は、児玉准教授が取り組んでいる「植物細胞内で起こる低温応答運動」に関する研究に対して贈られました。本学において笹川科学研究奨励賞の受賞は初めてです。

平成26年4月25日(金)に東京都内のホテルにおいて、授賞式および受賞者講演会が開催されました。

第60回栃木県陸上競技春季大会 走高跳で遠藤未久さん(教育学部)が優勝

平成26年4月11日(金)に、栃木県総合運動公園陸上競技場で行われた第60回栃木県陸上競技春季大会(栃木陸上競技協会)において、教育学部総合人間形成課程4年生の遠藤未久さんが「走高跳(高校一般女子)」種目で優勝しました。記録は1m60cmでした。

つくばロボット実験特区で 大学初の移動ロボットの実証実験

工学部 尾崎研究室



本学工学部、尾崎功一教授の研究室の学生たちが開発した1人乗り移動ロボットの実証実験が、茨城県つくばモビリティロボット実験特区で進められています。国内唯一の同実験特区で大学が実証実験を実施するのは初めてで、その成果が注目されています。

尾崎研究室が開発した搭乗型移動ロボット「nena(ネーナ)」は、周囲の構造物に影響される地磁気の変化を目印に位置を認識しながら走行する本学独自の技術「磁気ナビゲーション法」を採用。移動ロボットの競技大会「つくばチャレンジ」で1キロを超える完全自律走行に成功した実績を踏まえ、今回、つくば市から車両ナンバーを取得し、公道での実証実験を進めることになりました。今後、月1回程度、特区での実験を重ね、自律移動技術の応用研究、安全性の確認、磁気センサーによる磁気マップの作成などに取り組んでいく計画です。

尾崎研究室が開発した搭乗型移動ロボット「nena(ネーナ)」は、周囲の構造物に影響される地磁気の変化を目印に位置を認識しながら走行する本学独自の技術「磁気ナビゲーション法」を採用。移動ロボットの競技大会「つくばチャレンジ」で1キロを超える完全自律走行に成功した実績を踏まえ、今回、つくば市から車両ナンバーを取得し、公道での実証実験を進めることになりました。今後、月1回程度、特区での実験を重ね、自律移動技術の応用研究、安全性の確認、磁気センサーによる磁気マップの作成などに取り組んでいく計画です。

HANDSの成果を取り入れた 国際学叢書を刊行!!

国際学部は平成25年度に教員の研究成果を国際学叢書として刊行していくことを支援する制度を新設しました。その第一弾として、『地域のグローバル化にどのように向き合うか 外国人児童生徒教育問題を中心に』(田巻松雄 著)を下野新聞社より刊行しました。

定住化する外国人児童生徒が「下層」に転落することを防止し、日本の将来を背負う「グローバル人材」に成長していくことを支えるには何が必要か。本書は、栃木県・日本・東アジアの諸地域での人の移動をめぐる調査研究をベースに「多文化共生と外国人労働者問題」と「外国人児童生徒教育問題の諸相」を論じています。また、『中学教科単語帳』(平成25年度はフィリピン語版)の刊行、「多言語による高校進学ガイダンス」の開催、「外国人生徒の進路」調査などを行ってきたHANDSの実践と国際学部の取り組みを詳しく述べています。



『地域のグローバル化にどのように向き合うか 外国人児童生徒教育問題を中心に』 田巻松雄 著、HANDSプロジェクト 協力 A5判/208頁/下野新聞社/2014年3月

「宇都宮大学基金」へのご協力のお願い

日頃から宇都宮大学の教育・研究・社会貢献活動に温かいご支援とご協力を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

宇都宮大学は、「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ」をキャッチフレーズとして、高度専門職業人の育成に努め、基礎研究と最先端研究を推進し、成果を地域と世界に広く発信しています。また、本学の基盤は地域にあることを肝に銘じ、地域に愛され、地域から信頼され、地域と共に歩む大学でありたいと念願しています。大学の運営費は毎年大幅に減額を余儀なくされ、大きな支障をきたしています。このため本学は、人件費の抑制、科学研究費補助金等の競争的外部資金の確保など、財政基盤の確立に努力していますが、中長期的な視点に立ったとき、自主財源の確保がどうしても必要な状況になっています。

このため、広く皆様からのご協力とご支援を仰ぎ、本学独自の財政基盤強化を目的とした「宇都宮大学基金」を設立致しております。

この基金を、①学生への支援②留学生への支援③教育研究活動への支援④キャンパスの環境整備への支援に充当し、宇都宮大学の教育研究環境の整備と学生支援体制を一層強化してまいりたいと考えております。特段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

宇都宮大学長

進村武男



宇都宮大学基金支援事業のご紹介

基金を活用して次の支援事業を実施しています。

- 学生等(留学生を含む)の修学支援
- 国際交流支援
- 教育研究活動支援
- キャンパスの環境整備支援



■宇都宮大学基金増山奨学金

本学の大学院修士課程及び博士前期課程に在籍する学業成績及び人物が優秀で、かつ留学生活のための経済的支援を必要とする私費外国人留学生に対し、奨学金を支給しております。

■アクティブ・ラーニング環境(ラーニング・コモンズ)の整備支援

学生が自主的な学習を進めるためのアクティブ・ラーニングスペース(ラーニング・コモンズ)開設に際して、必要な備品・什器等の一部を整備しました。



■宇都宮大学基金齊藤裕奨学金・研究助成金

先導的な研究開発に意欲がある理工系の優秀な学生、若手教員・研究者に対する経済的支援を行うことを目的として設立されました。すでに学生2名及び若手教員2名に対し奨学金・研究助成金を支給しております。

7.21 (月・祝) 9:30 START 事前申込み不要です!

2014 OPEN CAMPUS

国立大学法人 **宇都宮大学**

国立大学法人 宇都宮大学 2014 OPEN CAMPUS

宇都宮大学ってどんなところ? どんな先生がどんな授業や研究をしているの? 入学するには? 就職は? ... パンフレットだけでは分からない、いろいろなことがわかります。ぜひとも宇大の魅力を肌で感じて下さい。※詳細なプログラムは、本学公式 Web サイトに公表します。

学部ごとの企画内容

- どんな学生をどのように育てるか
- 入学選抜の内容や卒業後の進路の紹介
- 学科や課程等の教育や研究内容の紹介
- なんでも質問コーナー など
- 模擬授業、体験実習、研究室・施設設備の公開

進学相談コーナー

【キャンパス】 学務棟(ミニストップのある建物)

宇大に進学したいあなたの疑問にお答えします! 例えば...

- 推薦入試を考えているのだけど...
- 奨学金は申し込める? 授業料の減免は?
- 入学したら学生寮には入れる?
- 留学も考えているのだけど...? など

市販されていない
過去問も公開!

キャリア教育・就職情報コーナー

【キャンパス】 キャリアカフェ

4年一貫のキャリア教育と手厚い就職支援! その中身をお教えします。

- 宇大のキャリア教育紹介
- 卒業生の進路状況の紹介
- 就職サポートのいろいろ

無料送迎バスのご案内

JR宇都宮駅東口バス乗り場からの無料送迎バスをご利用ください。
JR宇都宮駅東口→峰キャンバス前/開東キャンバス前
8:00~10:00頃:約5~10分間隔で運行
10:00~16:00頃:約20分間隔で運行
※バス乗り場では、係員の指示に従ってご乗車ください。

キャンパス間シャトルバスのご案内

(キャンパス間は、シャトルバスで約10分です)
開東キャンバス — **峰キャンバス**
開東キャンバス(工学部) 正門案内所前から峰キャンバス(国際学部・教育学部・農学部) 行きシャトルバスが発します。
峰キャンバス — **開東キャンバス**
峰キャンバス(国際学部・教育学部・農学部) 正門案内所前から開東キャンバス(工学部) 行きシャトルバスが発します。
※発車時刻などの詳細は、本学Webサイトにてお知らせします。

宇都宮大学企画広報課 TEL 028-649-8649
Web http://www.utsunomiya-u.ac.jp

UU-PRAS 【宇都宮大学企画広報課学生スタッフ】

編集会議 始めます!

この写真を 明るくしたらいいんじゃない??

見出しの写真 どれがいいかな?

UUnowの記事をインタビューしてる UU-PRASってどんな人たち? ユーユーアス

私たち、UU-PRASは、企画広報課の方々と協力して、宇都宮大学の広報活動を行っている学生のグループです。このUUnowの取材も行っています。

発足したのは一昨年ですが、今年度は学生たちが中心となってさらにアクティブに活動に取り組んでいく予定です!

また、メンバー希望する方は1年生はもちろん、2年~4年でもいつでも大歓迎です!

これから私たちと一緒に宇大の魅力を広めていきませんか?

楽しそう! と思ったら...?

こういうイベント企画したら、面白いかな!

これ今度の記事にしたらどうかな?

Mail: uu_pras@yahoo.co.jp tumblr: http://uu-pras.tumblr.com/ twitter @uu_pras
Tumblr (ホームページ)・Twitterのフォローお願いします! 参加希望もこちらのメールから!
ミーティング: 毎週月曜日 18:00~峰キャンバスラーニングコモンズ(見学大歓迎です!)

2014
11/22(土)

宇都宮大学では、第3回ホームカミングデーを開催いたします。
この折に母校の現状をご紹介させていただくとともに、同窓生・教職員が旧交をあたためただけなら幸いです。今回は峰が丘祭(大学祭)と同日の開催になりますので、学生と交流いただくこともできます。万障お繰り合わせの上、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

宇都宮大学 第3回 ホームカミングデー

—お帰りなさい宇大へ—

国際学部主催の企画

- 13:30～ 受付 (UUプラザ)
- 14:00～ 記念撮影
- 14:10～ 挨拶(学長、国際学部長)
- 14:20～ 国際学部20周年記念出版(下野新聞新書)のお披露目
- 14:40～ 杉原弘修名誉教授トークショー
「ホムカミで大喜利～宇大を笑う～(仮)」
- 15:30～16:30 懇親会 (国際学部大会議室)
サークル活動紹介のパネル展示
入学・卒業アルバムコーナー
※会費制(1,500円予定)とさせていただきます。

国際学部ホームカミングデーでは、創立20周年の記念として、昨年10月から編集を進めてきた「世界を見るための38講 38 Lessons For Engaging The World」(下野新聞新書)、及び「国際学部20年・国際学研究科15年の歩み」の出版お披露目をいたします。

教育学部主催の企画

- 10:00～ 受付(教育学部正面玄関)
 - 10:30～ 挨拶(学長、教育学部長、教育学部同窓会長) 2101教室
 - 10:40～ 教育学部同窓会の事業報告(同窓会事務局)
 - 10:45～ プレゼンテーション(教育学部教員)「教育学部の現状」
 - 11:00～ 講演
 - 11:30～ 休憩
 - 11:40～ ディスカッション
 - 12:20～ 大学歌斉唱
 - 12:40～13:40 懇親会 2階大会議室
- 講演・パネルディスカッションとして、①地域との連携②学生が地域の学校に向き、児童生徒と関わり合いを持つ「学校等支援活動(ボランティア)」③大学教員が公立学校等で授業を行うことの意義等を予定しています。

工学部主催の企画

- 12:30～ 受付(工学部アカデミアホール)
- 13:00～ 挨拶(学長、工学研究科長)
- 講演
学生による工学部同窓会助成金事業
成果報告会
フォトツアー
工学部の歩み紹介パネル展示
工学部同窓会総会
懇親会

農学部主催の企画

- 10:00～ 受付(農学部3101教室前)
- 10:30～ 挨拶(学長・農学部長)
- 10:40～ 座談会「農学部の学び今昔」を語る
- 12:00～14:00 ウェルカムパーティ(農学部大会議室、3101教室)
各学科等紹介パネル展示(農学部学生控室)
研究室等公開

事務OB・OG会

- 11:00～ 受付開始(本部棟第1会議室)

その他企画

- ☆大学オリジナルグッズの販売
- ☆農学部附属農場生産品・加工品の販売
- ☆農学部附属演習林グッズの販売

※プログラムの内容は計画中のため、一部内容変更をする場合がありますのでご了承ください。

■問い合わせ先 企画広報課 TEL 028-649-8647

宇都宮大学基金へのご寄付の申込及び払込方法について

○ご寄付の方法

基金の趣旨に賛同いただき、ご寄付いただける場合には、振込用紙にご記入の上、金融機関からお振込みください。(クレジットカードによる寄付も可能です。) ゆうちょ銀行、郵便局、足利銀行本支店窓口からお振込みいただく場合、手数料は無料です。

※お振込みの際、ゆうちょ銀行、郵便局の場合は左側の2つ(ゆうちょ銀行・郵便局用)、他の銀行の場合は3つすべてにご記入ください。

なお、現物、相続人による相続財産、遺贈によるご寄付もお受けしておりますのでご相談ください。

○個人情報の取り扱い

個人情報保護法に基づき、ご提出いただいた個人情報は本事業にかかわる業務以外には一切使用いたしません。

○ご協力をお願いする金額

- ・個人：一口5,000円(一口以上)

※クレジットカードによる継続寄付の場合は一口千円からご寄付が可能です。

- ・法人・団体：指定していません。

○税法上の優遇措置

ご寄付いただいた寄付金については、税法上の優遇措置を受けることができます。

- ・寄付者が個人の方の場合

所得税については、寄付金が2千円を超える場合、その超えた金額が当該年の所得から控除されます。個人住民税については、都道府県・市区町村が条例で本学を指定している場合、2千円を超える部分について税額控除されます。

詳細につきましては、お住まいの都道府県及び市町村にお問い合わせください。

- ・寄付者が法人の場合

宇都宮大学基金へのご寄付は、法人税法上の全額損金算入を認められる寄付金として財務大臣から指定されております。ご寄付をいただいた寄付金は、法人の所得から控除され、税法上の優遇措置を受けることができます。

○クレジットカードによるご寄付について

ニコス、VISA、MASTER、JCB、AMEXのマークのついているカードがご利用いただけます。



宇都宮大学基金 WEB サイトで詳しくご案内しております。クレジットカードをご準備いただき基金 WEB サイトにアクセスしてください。

- ・Yahoo!Japan、Google等の検索サイトで「宇都宮大学基金」と検索してください。
- ・スマートフォン、携帯電話であれば下記QRコードもご利用できます。

毎月一定額のクレジットカード払いによるご寄付も可能です。基金事務局担当(028-649-8177)までお問い合わせいただければ詳しくご案内いたします。

宇都宮大学基金

基金事務局(宇都宮大学企画広報課)

Tel 028-649-8177 Fax 028-649-5026

E-mail kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

http://www.utsunomiya-u.ac.jp/kikin/index.html

(検索サイトで「宇都宮大学基金」で検索して下さい。)

宇都宮大学基金 Web サイトに簡単アクセス!(スマホ、携帯の方は下記QRコードをご利用ください。)



宇都宮大学緑キャンパス・イチョウ並木
【Photo: Yusaku KIHARA】



宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY



宇都宮大学
携帯サイトへGO!

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp>

■ 企画広報課では、皆様の声をお待ちしております。
ご意見・ご要望などをお寄せください。

【宛先】宇都宮大学 企画広報課

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

TEL: 028-649-8649 FAX: 028-649-5026

E-mail: plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

UU now 第34号

企画・編集
宇都宮大学
UU now 第34号編集委員

編集委員

今成 麻友	国際学部3年
広瀬 祥	国際学部3年
丹野 裕太	国際学部4年
小野 康二郎	教育学部2年
角田 勢	教育学部2年
草刈 藍	教育学部2年
小林 直貴	教育学部2年
永野 彩	教育学部2年
二階堂 桜子	教育学部2年
野中 紗希	教育学部2年
鱒淵 雄史	教育学部2年
山本和香菜	教育学部2年
櫻井 絵理香	教育学部3年
鈴木 祐介	教育学部3年
築田 祐恵	教育学部3年
手塚 祐奈	教育学部3年
中山 拓人	教育学部3年
福田 朋美	教育学部3年
松林 美樹	教育学部3年
安江 美紅	教育学部3年
山口 美南	教育学部4年
尾山 真人	教育学部4年
柴崎 拓也	教育学部4年
鈴木 里佳	工学部2年
森園 祥江	工学部2年
松山 大介	工学部2年
CHAU THI NGOC QUYEN	工学部3年
渡邊 里奈	工学部3年
鬼塚 希美子	農学部3年
渋谷 志穂	企画広報課職員
渡邊 文彦	企画広報課職員
五月女 優子	企画広報課職員
手塚 絵美子	企画広報課職員

発行責任者

石田 朋靖 理事

編集協力

栃木文化社ピオス編集室 企画・広報担当